

米国では、巨大金融機関への反発が強まっている。連邦政府の公的資金を受け取りながら巨額のボーナスを支払った金融機関は不評だ。ここにきて急浮上しているのが、注入された公的資本を早々に返済し、業績絶好調のゴールドマン・サックス(GS)への反発である。先週以来、主要経済紙の社説や意見欄は、この話題で持ちきりだ。

救済、ボーナス、反感

東京大教授 伊藤 隆敏



話は昨年9月のAIG(保険会社グループ)救済にさかのぼる。財務省と連邦準備制度理事会はリーマン・ブラザーズ破綻(はたん)直後に、リーマン以外の金融機関への債務補償、資本

債、資本

注入などの形で広範な支援を実施した。最大規模の支援先が、AIGであった。実質国有化と引き換えに、財務省とニューヨーク連邦準備銀行は1820億ドル(16兆円)も

の支援を行った。その中から、AIGが供給したCDS(クレジット・デフォルト・スワップ)貸し出し債権、社債、証券化商品の不履行補償)も、相手方に満額支払われた。最大の恩恵はGSで、129億ドル受け取ったという。

つまり、AIGの救済は、(連鎖倒産防止のため)AIGの取引相手の救済だった。通常の破産では、債務を全額保護することはなく債権者にも

一定の負担を求めるものだが、当時の財務省などは、洋の東西同じだ。

は債務削減交渉をせず、AIGの取引相手は満額を手にした。この経緯を明らかにしたりポートが11月17日に公表され話題を呼んでいる。

批判をかわすためか、GSは今後5年間に5億ドルの中小企業支援を発表した。しかし、今年度のボーナス用資金として確保された167億ドルに比べ、いかにも少額と更に批判されている。日本でも資本注入の退職金批判があった。金融機関の責任の取り方の難しさ

は、洋の東西同じだ。

(注) 最大規模の支援先が、A I G (世界最大規模の保険会社グループ)であった。資本の 79.9%を保有する権利(実質国有化)と引き換えに、ニューヨーク連邦準備銀行は 1820 億ドル(16 兆円)もの支援を行った。その支援のうち 620 億ドルは、A I G が保有していた C D S (クレジット・デフォルト・スワップ=貸出債権、社債、証券化商品の不履行に対する補償)の相手方に支払われたという。最大の恩恵は G S で 129 億ドルであった。「1820 億ドル」の出所は、New York Times, “Revisiting a Fed Waltz with A.I.G” November 22, 2009. 「620 億ドル」の出所は、New York Times, “Goldman’s Non-Apology” (社説), November 22, 2009.

(注) C D S は、もともと特定の企業の社債などが不履行に陥ったときに、社債の損害を補償する一種の「保険」のようなものである。この C D S の供給会社は、購入者から保証料を受け取る。この C D S の対象を社債からサブプライム関連の証券化商品にまで広げて幅広く「保険」を販売したのが、A I G フィナンシャル・プロダクツ (A I G F P) という部門だった。世界中で従業員が 10 万人を超える A I G グループを、従業員数 100 人に満たない A I G F P が破綻させることになった。

(注) 11 月 17 日のレポートとは、

Office of the Special Inspector General for the Troubled Asset Relief Program, “Factors Affecting Efforts to Limit Payments to AIG Counterparties,” SIGTARP-10-003, November 17, 2009

(注)「いかにも少額の批判」New York Times, 2009 年 11 月 22 日社説、“Goldman’s Non-Apology”